

平成28年第11回定例教育委員会

平成28年11月24日(木)午後2時30分  
江別市教育庁舎 大会議室

出席者	教育長 委員 委員 委員 委員	月田健二 支部英孝 郷早見 橋本幸子 林大輔	説明員	教育部長 教育部次長 学校教育支援室長 総務課長 総務課主幹 学校教育課長 教育支援課長 給食センター長 対雁調理場長 生涯学習課長 スポーツ課長 情報図書館長 郷土資料館長 郷土資料館主幹 総務課総務係長	渡部丈司 萬直樹 伊藤忠信 山崎正樹 松崎英明 廣田修 浦田和秀 内藤信治 鈴木正春 佐々木倫子 三浦洋 山岸博 榎田智幸 兼平一志 星野崇志	記録員 傍聴者	なし
-----	-----------------------------	------------------------------------	-----	---	---	------------	----

---

1 報告事項

- (1) 平成28年度中学生国際交流事業の概要について
- (2) 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

2 審議事項

- (1) 平成28年議案第44号  
平成29年度江別市一般会計教育予算要求案について
- (2) 平成28年議案第45号  
職員の交通事故等に係る処分について

3 その他

- 次回教育委員会予定案件について
- 平成28年第12回定例教育委員会の日程について

会 議 録

月田教育長	<p>(開会)</p> <p>それでは、ただいまから、「平成28年第11回定例教育委員会」を開会いたします。本日の議事日程は配付のとおりであります。</p> <p>会議に先立ち、本日の会議録署名人を支部委員にお願いいたします。</p> <p>議事に入ります前にお諮りしたい事項がございます。</p> <p>議案第45号「職員の交通事故等に係る処分について」は、人事案件でありますことから、秘密会による審議を提案するものでございます。これにご異議ございませんか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>委員の皆様のご賛同が得られましたので、議案第45号は秘密会により進行いたします。本件を本日の審議順の最初に行い、秘密会終了後は、その他の説明員入室のため暫時休憩いたします。</p> <p>その後、配付の会議次第にしたがって進行してまいります。</p> <p>&lt;秘密会につき、会議録省略&gt;</p>
月田教育長	<p>委員会を再開します。議事に入ります。</p> <p>1の報告事項(1)「平成28年度中学生国際交流事業の概要について」の報告を求めます。佐々木生涯学習課長お願いします。</p>
佐々木生涯学習課長	<p>平成28年度中学生国際交流事業の概要についてご説明いたします。</p> <p>報告事項(1)の資料をご覧ください。</p> <p>当該事業は姉妹都市であるオレゴン州グレシャム市との間で行われており、今年度は、12月1日から12月11日までの11日間の実施を予定しております。</p> <p>今回の訪問団のメンバーにつきましては、中段に記載のとおりであります。団長として、江別第二中学校の桑原香奈先生に生徒の引率・指導をお願いし、全体調整を江別市国際交流員のロバート・ヒギンズ氏にお願いしております。</p> <p>参加者は、中学1年生が1名、2年生が3名、3年生が2名の合計6名であります。</p> <p>各参加者は、今年度の派遣割当てに該当する中学校からそれぞれ推薦をいただいて決定したものでございます。</p> <p>本年度は、8月31日の第1回目の事前研修会を皮切りに、10回の実前研修を終え、11月14日月曜日に副市長へ出発のあいさつを行いました。</p> <p>旅行日程については裏面に記載のとおりですが、訪問する生徒につきましては、12月2日から12月7日までの6日間、各家庭にホームステイをし、家庭生活を体験するとともにゴードンラッセル中学校への体験入学により、同年代の生徒との交流を行います。</p> <p>また12月8、9日の2日間は、オレゴン州の大自然やアメリカ合衆国の文化に触れ、国際理解や国際感覚などの見聞を広めるプログラムとなっております。以上でございます。</p>
月田教育長	<p>ただいま報告のありました「平成28年度中学生国際交流事業の概要について」、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p>
廣田学校教育課長	<p>次に報告事項(2)「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」の報告を求めます。廣田学校教育課長お願いします。</p> <p>報告事項(2)平成28年度全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたします。</p> <p>平成28年度の全国学力・学習状況調査は、平成28年4月19日に実施され、8月中旬に文部科学省より江別市教育委員会にその集計結果が送付されました。</p> <p>その結果の分析が終わりましたので、ご報告するものです。</p> <p>それでは資料の1ページをご覧ください。</p> <p>I 調査の概要です。</p> <p>まず、1調査の目的ですが、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することや、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役</p>

立てるものです。

次に、2調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数は、記載のとおりです。江別市立小中学校全校の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施しております。

3調査の内容、4調査方式、5調査期日は記載のとおりです。

次に、Ⅱ結果の概要です。

まず、1教科に関する結果の概要ですが、平均正答率の全道との比較では、小学校では、すべての教科において上回っており、中学校では、4教科中、国語Aを除く3教科で全道平均を上回っております。

全国との比較では、小学校の算数、中学校の数学のいずれも全国平均に近づきつつあり、特に小学校の算数Aでは、全国平均を初めて上回っております。

一方、国語では、小中学校ともに、昨年度は全国平均を上回っていましたが、今年度は全国平均に届きませんでした。

次に、2質問紙調査に関する結果の概要です。

平日に3時間以上テレビやビデオを見る割合は、小学校6年生は全国平均を下回っておりますが、中学校3年生は上回っております。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。

授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う、礼儀正しいと思う割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

また、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は全国平均を大きく上回り、ICTを活用した授業が積極的に行われています。

次に、Ⅲ各教科の結果は、2ページから6ページにかけて記載してありますので、主な点についてご説明します。

まず、2ページをご覧ください。小学校の国語Aです。

左側のグラフは、正答数の分布グラフです。棒グラフが江別市の状況、三角の折れ線グラフが北海道、ひし形の折れ線グラフが全国の状況です。

右側の上段の表は、この科目の江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率を記載しております。

右側の下段の表は、学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率を記載しております。

結果としましては、平均正答率は72.5パーセントで、北海道を1.5ポイント上回り、全国を0.4ポイント下回っています。

領域別では、話すこと・聞くこと、書くことが全国を上回り、読むことと伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項が全国を下回っています。

次に、国語Bです。江別市の平均正答率は57.7パーセントで、北海道を1.7ポイント上回り、全国を0.1ポイント下回っています。

領域別では、話すこと・聞くことが全国を上回り、書くこと、読むことが全国を下回っています。

次に、3ページをご覧ください。

算数Aです。江別市の平均正答率は77.7パーセントで、北海道を2.4ポイント、全国を0.1ポイント上回っています。

領域別では、量と測定、数量関係が全国を上回り、数と計算と図形が全国を下回っています。

次に、算数Bです。江別市の平均正答率は46.5パーセントで、北海道を2.0ポイント上回り、全国を0.7ポイント下回っています。

領域別では、数量関係が全国を上回り、量と測定が全国と同様、数と計算と図形が全国を下回っています。

次に、4ページをご覧ください。中学校です。

まず、国語Aです。江別市の平均正答率は74.7パーセントで、北海道を0.4ポイント、全国を0.9ポイント下回っています。

領域別では、書くことが全国を上回り、その他の項目が全国を下回っています。

次に、国語Bです。江別市の平均正答率は65.4パーセントで、北海道を0.4ポイント上回り、全国を1.1ポイント下回っています。

領域別では、書くこと、読むことが全国を下回っています。

次に、5ページをご覧ください。

数学Aです。江別市の平均正答率は62.1パーセントで、北海道を0.3ポイント上回り、全国を0.1ポイント下回っています。

領域別では、関数が全国を上回り、その他の項目が全国を下回っています。

数学Bです。江別市の平均正答率は43.9パーセントで、北海道を0.6ポイント上回り、全国を0.2ポイント下回っています。

領域別では、関数が全国を上回り、その他の項目が全国を下回っています。

次に、6ページをご覧ください。

IV質問紙調査の結果について、主な点をご説明します。

まず、1児童・生徒質問紙は、児童生徒が学習習慣や生活習慣等について回答したものであり、家庭の生活など9項目について、学力や生活習慣などの特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取り組みを四角で囲んだ部分に記載しています。

(2)の自己肯定感の①②③、難しいことへの挑戦意欲や自己肯定感、将来の目標等については、いずれも全国平均を下回っています。④の学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがあると、⑤の先生は自分のよいところを認めてくれていると思う割合は、いずれも全国平均を上回っています。

市内の学校では、一人ひとりの良さや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属感や達成感を高める取り組みを進めています。自己肯定感や自己有用感の一層の醸成が必要です。

次に、7ページをご覧ください。

(4)学校の授業以外の勉強では、小中学生ともに、塾などを含め休日に1時間以上家庭学習をしている割合は全国平均を上回っていますが、平日に1時間以上家庭学習をしている割合は全国平均を下回っています。学校からの宿題はもとより、各家庭においても、望ましい生活習慣を確立し、毎日学習に取り組むようにする必要があります。

次に、8ページをご覧ください。

(9)アクティブ・ラーニングについての③の授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合い、発表する学習活動に取り組んでいる割合が、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。

各学校では、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、子どもたちが、主体的に考え、判断し、表現する活動を意図的に設定する授業づくりに積極的に取り組んでおり、引き続きアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の推進が必要です。

次に、2学校質問紙は、学校の教育活動等について学校が回答した結果であり、学習態度・礼儀正しさなど4項目について、学力向上等の取り組みの中から特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取り組み等を四角で囲んだ部分に記載しています。

8ページから9ページにかけてご覧ください。

(1)学習態度、礼儀正しさでは、授業中の私語が少なく、落ち着いている、児童生徒は礼儀正しいの割合は、全国平均を大きく上回っています。

各学校では、私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

(2)長期休業中の学習サポートでは、夏休みや冬休みに、延べ5日以上学習サポートを実施した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、基礎学力の定着のため、教職員と学習サポート教員により、江別市の全小中学校で取り組まれており、大きな役割を果たしていることが表れています。

(3)家庭学習の課題では、国語や算数・数学の宿題をよく与える割合は、小学校6年生では、全国平均を上回っています。中学校3年生では、国語が全国平均を下回り、数学については、昨年度より割合が増加し、全国平均を上回っています。

江別市の児童生徒は、家庭で学校の授業の復習をしている・予習をしている割合は全国平均を上回っており、各学校では、学習内容を確実に定着させるために、学校が家庭での学習課題を計画的に与えるなど、家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

(4)ICTを活用した授業では、前年度、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機を活用した授業を週1回以上行った割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに

<p>廣田学校教育課長</p>	<p>全国平均を大きく上回っています。</p> <p>江別市では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、すべての学級に電子黒板を設置するなど、ICTを活用した授業が行われております。</p> <p>なお、10ページから24ページは、児童生徒質問紙と学校質問紙の項目について、グラフを掲載しておりますので、ご参照ください。</p> <p>続きまして、25ページをご覧ください。江別市学校改善支援プランです。</p> <p>まず、上段の明らかになった課題としましては、アでは、全国学力・学習状況調査を活用した継続的な検証サイクルを確立し、学校がチームとして学力向上の取り組みを推進していくこと、イでは、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題があることから、指導方法等の工夫改善やICTの効果的な活用など、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善、学習サポートの充実等が必要であること、ウでは、授業以外の学習時間が短いことから、家庭学習の定着や望ましい生活リズムを確立する必要があること、また、エでは、自己肯定感や自己有用感を高める教育の充実、オでは、読書活動の充実を図る取り組みの継続、カでは、小中学校間で児童生徒の学習状況について情報を共有し、小・中連携を一層推進していく必要があるとしております。</p> <p>資料の下段、左側は課題解決に向けた学校の取り組みとなっております。</p> <p>右側が、学校に対する教育委員会の支援であり、特に、1の学校の取り組みへの支援を引き続き図りながら、2の教職員の指導力向上に向けた支援の（1）教職員夏期・冬期セミナーの開催や、3の人的・物的支援の（1）小中学校学習サポート事業、（2）小中学校英語活動の支援事業、（6）パソコン、電子黒板等の活用、指導用デジタル教科書の整備といったICT環境の整備、（7）学校図書館支援事業などについて、今後もさらに充実に努めていく必要があると考えております。</p> <p>これら分析結果と支援プランについては、来月の校長会におきまして各学校に情報提供を行い、市教委と学校が連携・協力し、江別市学校改善支援プランの取り組みを通して、教育指導や学習状況の改善を図っていきたくと考えております</p> <p>なお、調査結果については、昨年度と同様、ホームページで公表する予定です。以上です。</p>
<p>月田教育長</p>	<p>ただいま報告のありました「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>その前に、私の方から補足したいと思います。1ページのところですが、2番目の質問紙調査に関する結果の概要についてというところで、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う、または、礼儀正しいと思う割合が、非常にすばらしいです。それが、8ページの下から、9ページの最初にかけまして記載されておりますが、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う中学校3年生は、100%ということで、これは、3年連続100%です。これは、すごいことだと思っておりますし、全国平均より、48.9ポイントも高いということです。</p> <p>また、小学校でも同じくらい49.8ポイントも高いということで、すごいことだと思っております。</p> <p>さらに、先日、総合教育会議を行いました。9ページの一番下（4）ICTを活用した授業というようなことで、市長の方から電子黒板は使われているのか、買ったけれどもあまり使われていないのではないか、というような話もありました。これを見ていただければわかりますが、全国平均よりも小学校では41.5ポイント高く、中学校でも23.6ポイント高いということで、かなり電子黒板等も使われているということが、よくわかると思えましたので、この辺は、市長に改めて説明をしなければならないかと思っております。</p> <p>そのようなところが、江別はすごく良いのですが、1つだけ、6ページの自己肯定感のところは、相変わらず、全国平均より低くなっています。この辺はこれからの道徳教育の時に、肯定感を高めるような授業をしていただきたいということを各学校にお願いしているところですので。</p> <p>また、今回、学力テスト関係では、若干、全国より低かったのですが、ほとんど全国と同じくらいということで、子どもたちはよく頑張っていると思っております。良い結果を出している学校は、どのようなことを行っているのかということをご発表いただき、各学校の指針にしていきたいと思いますと思っております。</p>

月田教育長 橋本委員	<p>何かありましたら、お願いいたします。</p> <p>相変わらず自己肯定感が低いというのが大変気になっています。ずっと言われてきていることだと思いますが、具体的に成績の良かった学校の自己肯定感が高いのか気になるところです。授業が落ち着いてできて、学校がすばらしいと子どもたちが100%思っているのであれば、自分のことをもっと好きになって高めることができる気持ちになれば、もっと学力がついてくるのではないかと思っています。</p>
廣田学校教育 課長	<p>それで、成績が良かった学校の子もたちの自己肯定感はどうだったのかというところが気になる場所でした。</p> <p>具体的に成績が良かった学校について、今、学校別のもを持ち合わせていませんが、各学校では、それぞれ児童生徒に役を持たせたり、学級みんなで協力し合って取り組む、といった形で取り進めているところでもあります。そのような中で、先ほど、教育長の方からも道徳教育の中で、自己肯定感を高める授業を行ってもらおうという話もありましたが、引き続き、そういったものを取り入れながら、子どもたちが自己肯定感を上げられるような環境づくりを進めていきたいと思っています。</p>
支部委員	<p>自己肯定感という部分で、学力調査とは別ですが、例えば、今年夏に行われましたこんがり王国を見させていただきました。今、小学生は、マッチを擦ることを知りません。触らせないとはいいますか、ライターにも近づけさせないという中で、初めての体験ではないですが、マッチを擦る、新聞紙に火を点ける、それが少しずつ大きくなって、焚き付けに火が点き、炭に燃え移っていくということを、苦労しながらチームで作業しています。うちわで扇ぐ人がいたり、風が強すぎてそれを抑える人など、火が大きく移っていった際には、歓声が上がります。子どもたちは、達成感みたいなものも含めて、なかなか気づかない部分があるのではないかと思っています。調査の方法というか、説明の仕方はどうなのかと思っており、どんな質問事項になっているのかわかりませんが、逆に、そんなに心配しなくても良いのではないかと、少し甘い考え方ですが、思っているところもあります。私としては、意見ですけれども。</p> <p>もう1点ですが、ICTを活用した授業ということで、先般も私、学校一斉公開の時に、同じようなICTを使った授業を観たということをお話ししましたが、やはり、素早いというか、明らかに子どもたちが理解し、それから、子どもたちの回答も瞬時に見て分かるということも、書いてあるとおりのポイントは高いかと、家庭学習調査については、調査結果と私の中での数少ない経験ではありますが、共通点といいますか、差はあまりないという気がしております。</p>
月田教育長 林委員	<p>他にございますか。</p> <p>私は、教育委員になって初めての全国学習調査だったものですから、また、非常に保護者含めて関心が高いテストだと思えます。</p> <p>いろいろな考えを持っている方と話す機会があり、改めて、江別市の結果の公表の基本スタンスを教えていただきたいと思います。今日、資料で出されているもの、または学校別のもの、これについての基本スタンスについて、どういった考えで公表しているというのを参考に教えていただけないでしょうか。</p>
伊藤学校教育 支援室長	<p>学力テストの結果につきましては、まず、江別市全体につきましては、今、お手元にお渡しした資料をそのままホームページで公表いたします。これは、江別市の現状を保護者の方に見ていただいて、今後の学校への協力等に資するというで公表しております。</p> <p>学校単位の公表につきましては、文部科学省の実施要領では、設置者、江別市では江別市教育委員会の判断で公表することも可能ですが、従来から序列化や過度な競争に繋がるということで、学校ごとの数値については公表しておりません。</p> <p>ただ、各学校には、その学校の状況についてどういう状況かというのを、数字ではなく、全国平均より上回っている、下回っている、同等であるなどの表現で該当学年の保護者は当然ですが、学校全体に学校だより、あるいは特集を組んだ形で周知するようにということで、指導しております。以上です。</p>
月田教育長	<p>今、伊藤学校教育支援室長からありましたように、江別市ではそのような形で扱っているということで、よろしいでしょうか。</p>
郷委員	<p>他にございますか。</p> <p>前段に教育長からありましたお話しに私も同感です。中学生は、私語が少なく、落ち着いた状況というのが、ここ数年100%ということで、授業環境としては大変すばらしい</p>

郷委員	<p>ことだと捉えております。</p> <p>自己肯定感というところでは、11月に各小学校では学芸発表会がありましたので、そちらに見学に行きました。その時には、全学年が生き生きとしており、6年生の発表に関しては、すばらしい発表だと感じました。子どもたちがアンケートに回答する時は、どうしても遠慮がちになってしまう部分があるのではないかと、私は捉えているところです。全体的には、スポーツの分野、文化的なこと、学習面のこと、それぞれが持ち味を出して、得意なことや、将来の夢、目標を持ってもらい、生活や学習環境に生かしていただきたいというところがあります。学校の方でも、そういった部分をもっと情報提供できるように、道徳教育などで、地域の中で頑張っている人たちに、小学校の時の話や、こういう夢を持って頑張ってきたという話などをしていただき、子どもたちにもっと夢を持ってもらえるような授業、環境づくりを考えていただけたらと思います。</p> <p>ICTの方では、先日の小学校の公開授業の際に、各学年、各クラス、国語、算数、理科などいろいろなものを見てきましたが、これからのアクティブ・ラーニングということ考えると、ICT環境の充実が必要かと思えます。資料や文章の組み立て、グループ発表など、長い目で考えていくと、そういう授業の発展性というのは、これから益々、必要なのではかと思えます。教職員の皆さんは大変だとは思いますが、いろいろな面で教職員の皆さんも学習していただき、ICTを生かせるようにしていただけたら良いのではないかという印象を持ちました。</p> <p>全体的には、全国的にも上回っているということですので、これから先進的な学習環境やプランなどを参考にしながら、より良い方向に向いていければ良いかと思えます。以上です。</p>
月田教育長	<p>もう一つだけ、言うのを忘れていましたが、9ページの上から2つ目ですが、長期休業中の学習サポート、これも5日以上実施したというのが全国より高いということで、江別の各学校は非常に頑張ってくれており、大変すばらしいと思っております。</p> <p>他にありませんか。</p> <p>(質疑終了)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>続いて、2の審議事項に入ります。</p> <p>(1)平成28年議案第44号「平成29年度江別市一般会計教育予算要求案について」の説明を求めます。渡部教育部長お願いします。</p>
渡部教育部長	<p>平成28年議案第44号平成29年度江別市一般会計教育予算要求案について、ご説明いたします。</p> <p>本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条において、地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他、特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならないと定められていることから、この規定に基づく教育委員会の意見聴取の前段として、教育予算要求の主な内容をご審議いたこうとするものであります。</p> <p>今年度までは、主な事業として学校の耐震改築工事を進めてきたところでありますが、次年度からも引き続き校舎屋体の改修やアスベスト建材の除去、ICT環境の充実など、必要な整備を進めていく考えであります。</p> <p>経常費は財政局へ提出済みであります。臨時費は今週末の25日が予算要求期限となっております。一部、不確定な要素もあり、要求金額や内容に、今後、変更が生じる場合がありますことをあらかじめご承知置き願います。</p> <p>このあと、予算要求方針につきましては次長から、各事務事業につきましては各所管課長から、順次ご説明申し上げます。</p>
萬教育部次長	<p>私から、資料の2ページに記載しております来年度の教育部予算要求方針についてご説明いたします。</p> <p>江別市では、現在、第6次総合計画に基づき全市的に様々な取り組みを進めており、その基本構想部分において、まちづくりの基本理念の一つに「子育て応援のまち」を掲げ、子育て支援や教育内容などの充実を図ることとしています。</p> <p>教育部では、総合計画や教育大綱の理念実現のための具体的な政策展開について、学校</p>

<p>萬教育部次長</p>	<p>教育基本計画をはじめ記載の3つの個別計画などに基づきながら、教育施策を推進する方針のもとに、必要な予算要求を行います。主要なものは次の4点であります。</p> <p>1点目は、全市的に取り組んでいる安全・安心の確保のため、学校教育施設や社会体育施設について、長寿命化や老朽化した施設設備の計画的な更新等を進めていこうというもの。</p> <p>2点目は、学力向上には基礎学力の定着が大切なことから、個々のニーズに応じた支援の充実とともに、退職教員等による学習サポートや、ICTを活用した学習環境整備を、引き続き推進していこうというもの。</p> <p>3点目は、生涯学習活動、文化・芸術活動の推進のため、公民館や文化ホール等の施設の維持・補修を適切に行うほか、各種活動の機会を充実させるための取り組みを引き続き進めていこうというもの。</p> <p>4点目は、社会体育施設の耐震化を継続するとともに、スポーツ活動の機会の充実や、スポーツ振興の支援などの取り組みを、引き続き推進していこうというものであります。</p>
<p>山崎総務課長</p>	<p>私からは以上ですが、詳しくはそれぞれの所管課長等から順次ご説明いたします。</p> <p>資料の3ページをご覧ください。</p> <p>総務課の事業のうち、現在、新年度事業として予定をしておりますものの主な事業についてご説明いたします。</p> <p>まず、コミュニティ・スクール事業といたしまして、学校・家庭・地域が連携協力して子どもを育てる仕組みを持った学校づくりを行うため、平成29年度から全小中学校に学校運営委員会を設置し、えべつ型コミュニティ・スクールを導入します。</p> <p>2つ目でございますが、学校施設・設備の改修につきましては、江別第一小学校の外構・グラウンド工事や、煙突断熱材・天井吹付材等のアスベストを含有している建材の除去、囲い込み等の工事を行います。</p> <p>3つ目として、遠距離通学送迎事業といたしまして、江北地区、豊幌地区、東西野幌地区、角山地区の4路線について、スクールバス及びスクールタクシーを運行し、登下校時における児童生徒の安全確保を図ってまいります。</p> <p>このほか、私立高校への助成金は、札幌地区私立中学高等学校PTA連合会から要望を受けているところでありまして、厳しい財政事情の中で現行補助金額を確保するものでございます。以上です。</p>
<p>廣田学校教育課長</p>	<p>続いて、学校教育課所管分の主要事業についてご説明いたします。</p> <p>資料の4ページをご覧ください。</p> <p>子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着を図るため、小中学校学習サポート事業において、引き続き授業におけるティームティーチングや少人数指導、放課後学習などに取り組むため、学習サポート教員を学校に派遣します。</p> <p>児童生徒体力向上事業では、北翔大学の協力のもと、市内の小中学校で、モデル校での取り組みなど、各学校の状況に応じた子どもたちの体力向上に継続して取り組みます。</p> <p>小中学校外国語教育支援事業では、引き続き外国語指導助手の活用を図りながら、小学校高学年において、小学校外国語教育のレベルに合わせたリスニング形式の検査である英検Jrを新たに実施するなど、外国語教育の充実を図ります。</p> <p>情報教育推進事業では、学校におけるICT環境整備のため、引き続きコンピュータの維持管理や更新を行うほか、電子黒板で提示できるデジタル教科書の整備を図ります。</p> <p>また、中学校におけるパソコン教室の更新に合わせ、既存のパソコンをデスクトップ型からタブレット型に変更するほか、全中学校に普通教室用パソコン、校内LAN等のICT環境を整備します。</p> <p>教育扶助費では、就学援助の支給項目としてPTA会費及び生徒会費を新たに追加し、就学援助制度の充実を図ります。</p> <p>そのほか、社会人による教育活動等支援事業、学校図書室事業、キャリア教育推進事業などを継続して実施します。以上です。</p>
<p>浦田教育支援課長</p>	<p>教育支援課担当所管の主要事業についてご説明いたします。</p> <p>資料の5ページをご覧ください。</p> <p>まず、問題行動対策事業及びいじめ・不登校対策事業ですが、いじめや不登校、問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応に取り組むため、専任指導員等の人員配置、ネットトラブルの防止、不登校児童生徒を対象としたスポットケア事業等を実施します。</p>

浦田教育支援課長	<p>次に、特別支援学級生活介助事業及び特別支援教育推進事業ですが、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級及び通常学級で困難を抱える児童生徒の支援を行う支援員の配置、教員・保護者を対象とした研修会を開催するほか、大学教授や特別支援学校教諭等で構成する専門家チームによる巡回相談など、引き続き必要な支援を実施します。</p>
内藤給食センター長	<p>なお、これらの事業につきましては、平成29年度の要求額は、平成28年度の予算額と比べて増額しておりますが、これは、支援員の充実のほか、肢体不自由児等が不安のない学校生活を送れるよう、車椅子の子でも使用できる水呑場、トイレ及びシャワー等の設置する工事費を計上したためであります。以上です。</p> <p>給食センターの所管の新年度の主要事業についてご説明いたします。 資料の6ページをご覧ください。</p> <p>食育の推進については、江別市の公立小中学校における食育の推進に沿って、各学校が特色に応じた実践的な食に関する指導を行えるよう、各学校における校内体制の充実、食に関する指導の全体計画の改善・充実及び各学校の特色に応じた食育推進のために必要な助言や援助を行います。</p>
佐々木生涯学習課長	<p>また、学校給食への地場産の米、麦や野菜など安全・安心な食材を安定して提供するとともに、引き続き地場産品の使用拡大を図ります。以上です。</p> <p>続きまして、生涯学習課の主要事業についてご説明いたします。 資料の7ページをご覧ください。</p> <p>生涯学習係所管の生涯学習に関する事業につきましては、多種多様化している市民ニーズに対応するため、大学等の知的資源の有効活用を図るとともに、学習機会の確保や学習の場としての社会教育施設の整備など、生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりを行います。</p> <p>平成29年度は、生涯学習講座の充実を目指し、引き続きえべつ市民カレッジ事業を実施します。</p> <p>また、家庭の教育力向上を目的として家庭教育事業をリニューアルします。これまでの家庭教育事業では、未就学児童の保護者を対象として、青空子どもの広場事業を実施してきました。しかしながら、子育てに関する不安や悩みは子どもの発達段階によって様々であることから、就学児童の保護者を対象に事業を展開していきます。</p> <p>このことから、平成29年度は、保護者に対し学びの場を提供するほか、親子で一緒に参加できる体験活動事業の実施を予定しており、これに係る経費を要求しております。</p> <p>次に、公民館施設補修整備、市民文化ホール施設改修事業が大幅に増額となっておりますが、これは、老朽化が進む公民館等の補修を行うもので、大麻公民館の監視カメラ等設備改修工事などに係る経費を要求しております。</p> <p>続きまして、文化振興に関する事業につきましては、優れた文化・芸術作品の鑑賞機会の充実を図るとともに、市民団体が主体的に行う舞台芸術や展示発表、また次代を担う子どもたちを育む参加創造型の取り組みを支援し、市民と共に創造する文化活動を充実させていきます。</p> <p>平成29年度は、市民文化ホール管理運営事業が増額となっております。20周年を迎えるえぼあホールにて記念事業を行う予定であり、その開催に要する経費の一部を通常管理運営経費に上乗せしております。</p> <p>次に、青少年に関する事業ですが、青少年の健全育成を図るため、家庭・学校・地域と連携し、青少年の主体性や社会性を育む体験活動など各種事業を推進します。</p> <p>平成29年度の主な変更点ですが、中学生国際交流事業につきましては、姉妹都市40周年としてグレシャム市において実施を予定している記念事業に合わせ、生徒を派遣することから、その引率に係る人員増員分であります。</p> <p>小中学生国内交流研修事業の増額につきましては、より多くの交流を進めていきたい、これまでの江別市からの派遣人数13名を、土佐市からの訪問人数16名に合わせ、3名分の増員にかかる旅費を要求するものです。以上です。</p> <p>続きまして、スポーツ課の主要事業についてご説明いたします。 資料の8ページをご覧ください。</p> <p>スポーツ推進計画に基づき、市民が生涯にわたってスポーツを行える場や機会を提供し、心身ともに健やかな市民生活の実現に努めます。</p> <p>そのため、生涯スポーツを推進し、市民が日常的にスポーツを楽しむ多様な活動機会の</p>
三浦スポーツ課長	

三浦スポーツ課長	<p>提供や環境整備、スポーツを習慣づけるための手立てや情報提供を充実させてまいります。</p> <p>また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、スポーツ合宿誘致に取り組み、合宿参加選手との交流や指導を通してスポーツ振興につなげてまいります。</p> <p>スポーツ環境の整備・充実については、耐震対策や市民要望を踏まえ、スポーツ施設の計画的な改修に努めてまいります。</p> <p>平成29年度の各事業の主な内容については、屋内・屋外体育施設管理運営事業では、大麻体育館のトレーニング室棟の耐震改修工事を予定しており、工事期間中、休館するため、利用料金収入を補填する経費を見込んだ要求であります。</p> <p>スポーツ大会等振興補助事業では、大会運営に係る人件費や謝礼等必要経費が増加しております。</p> <p>体育施設整備更新事業では、大麻体育館トレーニング室棟耐震改修工事や、老朽化した市民体育館の設備改修工事等を予定しており、その他、日常的な維持修繕に関する経費が増額となっております。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団への補助では、スポーツ少年団への補助を強化し、活動を支援していこうとするものです。</p> <p>スポーツ合宿誘致推進事業は、各競技団体へのPR活動に要する経費や空港から合宿会場、宿泊施設の間のバス輸送経費、施設使用料の一部を補助する経費などを見込んでおります。</p> <p>パラ・スポ体験会開催事業は、パラリンピックなどで知られている障がい者スポーツを広く市民に紹介し、実体験する機会を通じて、スポーツに親しむ機会の提供や、意識醸成を図るために開催するものです。以上です。</p>
山岸情報図書館長	<p>情報図書館の主要事業について、ご説明いたします。</p> <p>資料の9ページをご覧ください。</p> <p>読書普及活動事業は、子どもたちの感性や情操を育むとともに、保護者に対しても読書への関心を高める機会として、おはなし会を開催します。</p> <p>また、子どものための読書環境整備事業では、学校司書の巡回により、環境整備を継続するとともに、朝読書や調べ学習などの教育活動を支援し、児童生徒の学力向上を図ります。</p> <p>図書館資料整備事業では、幅広い分野の図書資料を収集するとともに、ビジネス支援等の機能を持った特設コーナーの配置など、利用者の要望に応えられるよう、サービスの充実に努めます。</p> <p>図書館設備等更新事業では、電算システム、パソコン等の老朽化した機器を更新することにより、図書館利用者の環境を維持し、利便性の向上を図ります。以上です。</p>
榑田郷土資料館長	<p>続きまして、郷土資料館の主要事業についてご説明いたします。</p> <p>資料の10ページをご覧ください。</p> <p>ふるさと江別塾～『江別を学ぶ』開催事業については、市民が郷土の歴史や文化を学ぶ事業を、引き続き実施いたします。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査事業では、高砂遺跡の発掘調査を予定していることから、調査経費が増額となっております。</p> <p>野幌太々神楽伝承会補助金は、同会から伝統芸能保存と普及活動への支援要望を受け、引き続き補助し、伝承活動への支援を継続いたします。</p> <p>セラミックアートセンター企画展開催事業は、平成29年度については、道外美術館などからの借用展示会を行わず、平成30年度以降の企画展に係る計画策定年度とすることから、市内関係者との共同企画の展示経費や所要の調査費の計上に留まっており、前年度と比べ減額となるものです。</p> <p>次に、セラミックアートセンター改修事業では、快適な施設環境を保持するため、開館から23年を経過し、経年劣化している照明設備などの整備を計画的に進めます。以上です。</p>
月田教育長	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。</p> <p>私から1つだけ、総務課ですが、3ページのところにアスベストを含有している建材の除去と記載されておりますが、こちらはどのようなことでしょうか。</p>
山崎総務課長	<p>アスベストの関係につきましては、校舎の中などにあります仕上げ材に含まれているアスベスト等を使った建材につきましては、順次、封じ込めや除去、囲い込みを行っております。</p>

山崎総務課長	<p>ます。大規模な工事や改築があった時には、完璧に除去されますが、とりあえず、危険がないものについては、現状のままでも良いということで、今まで使用してきております。</p> <p>ですから、アスベストがない訳ではなく、実際にはあります。危険なものは、囲い込みなどを行ってきておりますが、そういったものも含めまして、現在すぐ飛散の恐れがないものに関して予算要求をしていこうということになりました。</p> <p>先日の札幌市の煙突問題もございましたし、煙突については、新聞報道にあるとおりでございますけれども、そういう予算も含めて要求していこうというところでございます。</p>
月田教育長 橋本委員	<p>他にございますか。</p> <p>3ページのコミュニティ・スクールの事業ですが、この金額は、どういったことに具体的に使われるのでしょうか。</p>
山崎総務課長	<p>コミュニティ・スクール制度の中では、法律でいうと学校運営協議会、江別市的には、学校運営委員会としますが、そちらの委員は地方公務員扱いとなりますので、報酬が発生する委員になります。これまで、PTAや学校に貢献いただいている皆さんは報酬がありませんでしたが、これは法制度上、特別職になりますので、報酬が出ると総務部職員課からも言われておりますので、微々たるものですが、報酬を出すことを考えております。</p>
月田教育長 林委員	<p>また、学校側から、学校運営委員会を通して、各種周知や活動するための印刷物に関する印刷費や紙代などを26校分措置している、その2つであります。</p> <p>他にございますか。</p>
月田教育長 林委員	<p>今、教育長が聞かれましたアスベストの件ですが、ある、なしという部分を聞こうと思っていたのですが、ある前提で話をしますけれども、非常に札幌で問題になったので、結構、関心があるかと思えます。そこで、予算要求ということで、要求して、実際に予算がついた時には、100%この金額が単年度でということは、なかなか難しいのかもしれませんが、要は、教育長も心配されていましたが、マスコミ等にこれが江別も実は札幌と同じように、封じ込めているとはいえアスベストがあり、順次、改修しますというのが、一人歩きすると、どうなのかと騒ぎ出す心配があるのではないかと懸念します。どこまで、どう情報公開し表現していくのか、慎重にやらないと、これだけが独り歩きすると問題ではないかという感じを受けるものですから、その辺を懸念します。</p>
萬教育部次長	<p>学校に限らず、教育委員会の所管の施設で、アスベストを含む可能性がある建材が使用されている煙突について、先日、市長から報道に記者会見という形で、取材を受け、翌日の新聞報道になっております。</p> <p>その内容を改めて申し上げますと、教育委員会所管、学校施設の煙突では9校、それ以外の社会教育施設、社会体育施設なども含めて6本、あわせて15本の煙突が、断熱材にアスベストを含む可能性がある建材が使われているということで、道教委などから定期的な点検や報告を求められており、一定のガイドラインなどが示されておりますので、その中できちんと点検をし、報告をしております。</p>
郷委員	<p>報告の内容としては、劣化や損傷は今のところなく、定期的な点検を続けながら使用をしていくという状況でございます。</p> <p>また、先ほど、総務課長から申し上げました内装材に使っているという学校も数校ございます。これも、北海道の示しているガイドラインでは、安定していて、剥離や損傷などがない状況ということを定期的に確認しながら使用継続して構わないということになっておりますので、定期的に点検をし、あるいは専門機関を通じて、空気中の濃度調査を行うなど、生徒の安全を守りながら、使用継続しているという状況でございます。</p> <p>林委員が懸念されている報道がこの資料を見て、騒いだりしないかということですが、すでに報道発表しているところでございます。今は、要求段階ですので、この後、財政部門と協議をし、査定などの経過を経て、この予算が可決するということになりますので、そういった過程の中で、どのような表現にしていくかといったことも含めて、検討してまいりたいと考えております。以上です。</p>
郷委員 渡部教育部長 郷委員 月田教育長	<p>昭和50年代に建てたものだったら、アスベストを含む可能性は高いということですよね。</p> <p>ちなみに、給食センターの方は、両施設ともに特に問題はないということです。</p> <p>新しい施設ですよ。札幌の問題は、給食のところにあったからということですよ。</p> <p>他にございませんか。</p>

郷委員	私の方から何点かありまして、まず、1点ずつ伺いたいと思います。コミュニティ・スクールに関しては、先ほど、橋本委員からも質問があったのでよろしいですが、市内私立高校助成金は、市内にある高校2校について、生徒の人数に合わせて助成をするものなのか、どういった内容で助成金は支給されるものなののでしょうか。
山崎総務課長	合計で600万円ですが、ご指摘のとおり、とわの森三愛高校と立命館慶祥高校です。こちらの助成については、人数割りという考え方ではなく、そもそも教育に資する設備や器具等を購入することに対して、一部を助成するという考え方で行っております。こちらにもいろいろな状況がありまして、予算を付けていただいておりますが、補助金関係につきましては、10年くらい前に結構大きく手を入れたことがありまして、10年くらいはこの額できている状況です。
郷委員	4ページ目の教育扶助費ですが、こちらは、項目が増えているのに去年より要求額が少なくなっています。減額の内訳というのは、児童生徒の人数によるものなのか、どういった関係なののでしょうか。
廣田学校教育課長	こちらについては、予算的には、PTA会費や生徒会費を新たに追加するので、本来であれば増加になると思いますが、830万円の減額となっております。減額理由といたしましては、就学援助の認定者数が昨年度と比較して、減少しているということが大きな理由で、トータルで減額という形になっております。以上です。
郷委員	7ページのえぼあホールの20周年ですが、記念事業の内容に関しては、何か計画は立てられているのでしょうか。
佐々木生涯学習課長	こちらについては、同じく20周年を迎えるNPO法人えべつ学友協会とタイアップという形で事業の実施を考えておりまして、平成30年の3月にある程度、質の高い音楽のコンサートを行うということで準備を進めております。以上です。
郷委員	8ページのパラ・スポ体験会開催事業ですが、これは先ほどのお話をもう少し詳しく、回数や内容などを教えていただいてもよろしいのでしょうか。
三浦スポーツ課長	今年の10月に市民団体と協力して、スポーツ課主催でパラ・スポ体験会を行いました。さらにこれを充実させるために、来年度については、パラリンピック等、スポーツを経験した方を呼んで、さらに盛り上げて行こうというところです。以上です。
郷委員	回数は、1回ですか。
三浦スポーツ課長	1回です。
月田教育長	それでは、他にありませんか。 (質疑終了)
	それでは、平成28年議案第44号「平成29年度江別市一般会計教育予算要求案について」を承認することにご異議ありませんか。
	(一同了承)
	それでは、そのように承認いたします。
	続いて、3のその他に入ります。
	次回定例教育委員会予定案件及び日程について、説明願います。山崎総務課長お願いします。
山崎総務課長	次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、「平成28年第4回江別市議会定例会の一般質問について」「平成29年成人のつどいの開催について」などを予定しております。また、次回、定例教育委員会の日程でございますが、12月27日火曜日午後2時30分からと考えておりますが、各委員のご都合等はいかがでしょうか。
月田教育長	ただいまありましたように、次回の定例教育委員会は12月27日火曜日午後2時30分からということで、皆様よろしいですか。
	(一同了承)
	それでは以上をもちまして、第11回定例教育委員会を終了いたします。 ありがとうございます。
	(閉会)

終了 午後3時46分

署名人（教育長） 月田 健二

署 名 人 支 部 英 孝